

資料編

1. 関係機関ヒアリング概要

: Mountains to Sound Greenway

: Federal Highway Administration(FHWA)

: Scenic America

: State of North Carolina(DOT)

: Blue Ridge Parkway(BRP)

2. 全米シーニック・バイウェイ会議(2001年ポートランド)

3. オレゴン州におけるシーニック・バイウェイ事例

Historic Columbia River Highway Scenic Byway

Pacific Coast Scenic Byway

4. シーニック・バイウェイをより魅力的にするための要素

資料編 4 . シーニック・バイウェイをより魅力的にするための要素

観光の印象は、旅行者が自宅を出てから戻るまでの一連の観光行動全体の評価により決定される。観光行動には移動、宿泊、食事、ショッピングやレクリエーションなど様々な要素が含まれるが、そのうちひとつでも不満足なものがあると全体の印象に悪影響を与えることになる。特に、広大な北海道では移動の占める割合は高く、観光客はいやがおうでも移動に旅行時間の多くを費やす。自動車交通への依存度が高い北海道では、道路上から景観を眺めざるを得ないことが多い。また展望台での眺望やレクリエーションを楽しむにしても道路の機能に大きく依存しなければならない。そういった意味で北海道観光をより魅力的なものにしていく上で、道路の役割は大きい。

こうしたことから観光レクリエーションの目的としてのシーニック・バイウェイをより魅力的なものにしていくためには、一連の観光行動に伴う移動を安全かつ快適なものとしていくことが求められる。以下シーニック・バイウェイをより魅力的な資源としていくために必要な要素を示す。

(1) 州際道路 (Inter State Highway)

米国の主要都市はほぼ碁盤の目状に州際道路で連結されており、さらにそれを補完するように国道等の幹線道路が連絡している。都市から観光レクリエーション地域へも州際道路 国道 州道と乗り継ぎながら到達できる。州際道路は通常片側 3 車線 (外側 : 大型車走行車線、中央 : 走行車線、内側 : 追い越し車線) で、郊外部でも 2 車線確保されており、安全・快適な走行が可能であり、運転によるストレスは少ない。観光の最中、渋滞や追い越しなどヒヤリとする瞬間の繰り返しでは、せっかくの楽しいはずの観光も台無しとなる。

バイウェイは基本的に幹線道路と連絡している“脇道”である。バイウェイに用いない車両以外は走行しない。ドイツのロマンティック街道等の休暇街道もアウトバーン (高速道路) が並行しており、観光レクリエーション目的以外の車両が走行することはほとんどない。こうした道路交通の機能分担により、渋滞の緩和や交通の安全性の向上が図られることはもちろんであるが、“観光する空間”から日常的なものをできるかぎり排除できることから、より観光に適した空間演出が可能となる。



図表 31 シーニック・バイウェイは一般に郊外部にあることが多く、高速道路 (無料) が利用できれば到達までのストレスが少ない

(2) 一般道路

シーニック・バイウェイやシーニック・ルートに指定されていない郊外部の一般道路も路側幅が広く、道路敷地境界線付近もラウンディング処理されており、周囲の景観と馴染んでいる箇所が随所にみられる。右左折レーンは連続もしくは我が国と比較しても延長が長くなっており、走行車線での自動車の流れを阻害しないような工夫がされている。



図表 32 シーニックバイウェイではない一般道路（路側も広く広復員道路並、敷地境界はラウンディング処理、電柱も見えない）



図表 33 一般道路部（真ん中の車線は右左折レーンが連続して続いている）



図表 34 一般道路交差点部（緑色の案内標識は交差点角にあり見やすい）

(3) ビジターセンター

地域の地理に不慣れな旅行者にとって、道路情報や地域の様々な情報は快適な観光をするうえで重要な要素である。道路案内標識を初め、最近普及しつつある GPS を活用したナビゲーションシステムなどより決めの細かい情報の提供も可能となりつつある。

オレゴン州内には中小都市であっても必ずといっていいほど旅行者に情報等を提供してくれるビジターセンターが市街地に設置されている。大半が商工会議所内もしくは隣接して設置され、州や市町村の助成金や地域の観光ボランティアの協力によって運営されている。わが国では、市町村内の観光施設等は沿道の案内看板等によって示されている場合が多いが、看板のデザインが周囲の景観と調和していない場合や看板の数が多すぎて煩雑になるなどの事例が見られる。オレゴン州では州際道路を降りると、まず目につくのがビジターセンターの案内標識であり、旅行者は自ずとビジターセンターに誘導される。そしてビジターセンターには必ず市町村の地図をもらうことができ、不明な点があれば常駐しているスタッフに詳細な情報を聞くこともできる。

様々な最新の情報提供システムが普及する中、直接的な人と人とのコミュニケーションができるビジターセンターは情報提供機能を超えた、ある意味、それ自体観光を演出する舞台装置としての役割を担っているものと推測される。



図表 35 コロンビア川シーニックバイウェイ上にあるmulta滝のビジターセンター（レストラン併設）



図表 36 ビジターセンター内部(ティラムック：市町村商工会議所に併設されている場合が多い。州、市町村、商工会議所等からの助成金により運営されている。)



図表 37 専用ラックに並べられたパンフレットは整頓された感じを受け、使いやすい（ポートランド）



図表 38 ビジターセンターの多くは高齢者ボランティアの協力で運営されている（アルバニー）